

笑顔あふれる学校・思いやりあふれる学校・チャレンジあふれる学校

令和2年度 飯野中学校 学校だより 第19号

自律 志保井が丘 協働
挑戦 2020.6.30 発行 文責 校長 目黒 満 創造
教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなで育む学校

学校通常再開から一ヵ月

今日で学校通常再開からちょうど一ヵ月。例年であれば、昨日 29 日はゴールデンウィークが始まる昭和の日になっていたはず。来週は GW 真っ只中。お休みの日もはさみながら、部活動の練習試合が目白押しで、暑さも相まって、疲れと休養が交互にやってくる GW に突入！という感じの日程のはずです。学校が始まって一ヵ月、今くらいの時期は、新しい生活での慣れや疲れ、充実感や新しい課題等も出てきて、自分のペースが出来てきて調子が上がってきたり、逆に辛くなったりきつくなったり、プラス面でもマイナス面でも大きな節目となる時期です。

よく「3日坊主」とか「石の上にも3年」と言いますが、何事も「3」のつく時期が節目です。何か新しいことに挑戦するとき、3日、3週間、30日、3ヶ月、3年と、その節目を乗り切れれば、持続できるのが「節目」です。

30日の節目にあたり皆さん一人ひとり、この一ヵ月の自分自身の生活を振り返ってみてください。ちょっと立ち止まって、志保井が丘ノートを読み返してみるのもいいですね。自分がこれまで頑張ってきたこともあれば、もう少し頑張れたはずなのにいまひとつ踏ん張れなかったこと、今日の学習コンテンツへの取組もその一つですね。先生から褒められたこと、友だちから認められたことも、またその逆もあるかもしれません。でも、それもすべて

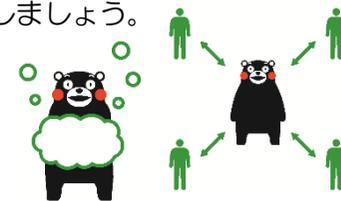
自分の1ヶ月です。自分自身がこの1ヶ月、頑張る方を選んだか、それとも楽な方を選んだか、自分を鼓舞してみんなのために何かに取組もうとしたか、それとも手を抜いてさぼってしまったか、節目の今、少しだけ立ち止まって自分自身を見つめてみてください。自己マネジメント力を育てるのは自分自身です。



「通常」の学校生活ではなく、「新しい」学校生活

右の欄で「通常再開」と言っているのにどうということ？と思うかもしれませんが、今は「通常」ではないことを改めて意識しましょう。

毎朝の検温と健康観察、マスク着用、手指消毒、丁寧な手洗い、黒板を向いて静かに食べる給食、エアコンつけてるのに換気、ソーシャルディスタンスの確保、これまで通りの活動ができない体育や音楽など。去年までの学校生活と比べたらかなり違ってきます。これは「通常」ではなく、「新しい」学校生活なのです。



「with コロナ」という言葉を耳にしたことはありますか？ 1年生はまだ学習していないと思いますが、「with OO」とは英語で「OOと一緒に、共に」という意味です。今、世界中が「コロナと一緒に生活しなければならない状況である」ということです。新型コロナウイルスは身近に存在するので、かからないように、かかったとしても他の人にうつさないようにという配慮や思いやりを持って、感染を広げる行動をしないよう一人一人が判断して行動する必要があることを「with コロナ」という一言で表現しています。



いつになったら通常の授業ができるの？ マスクはいつはずせるの？ 合唱はいつできるの？ 等々、皆さんも、もちろん先生方も悩んでいます。その答えは、新型コロナウイルス感染症への「特效薬」や「ワクチン」が完成し、近所の病院で治療が出来るようになった時です。それまでは、「with コロナ」の「新しい」様式・ルールと感染予防策の下で生活していくことが、自分自身と家族、大切な人の命と健康を守ることになります。

また、その様式・ルールは常に一定・一律ではなく、幅があり、バランス感覚と判断力が必要になります。例えば、暑い中で激しい運動をするのにマスクをしていたら、熱中症で命が危険にさらされます。コロナと熱中症、どちらが危険かという判断をすれば、人との距離を取りながらマスクをはずすという判断になります。「with コロナ」の今、まだまだ先が長いかもしれませんが、一人一人の思いやりと主体的な判断力そして行動力が試されています。